山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	令和6年度第3回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	令和7年3月18日(火) 18:30~20:05		
場所	市役所3階大会議室		
出席者 (15人)	山陽小野田市連合女性会	井上幸子	(委員)
	山口県精神保健福祉士協会	植木亨	(委員)
	山陽小野田市健康増進計画推進委員会	小柳朋治	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	高木理代	(副会長)
	山陽小野田歯科医師会	田中裕基	(委員)
	一般公募	土井さつき	(委員)
	山口大学大学院医学系研究科	長谷亮佑	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子	(委員)
	山陽小野田医師会	廣田勝弘	(会長)
	一般公募	榎本晴美	(委員)
	山陽小野田薬剤師会	松垣裕明	(委員)
	山口県栄養士会	三井洋子	(委員)
	山口県理学療法士会	三戸洋	(委員)
	山陽小野田市立小学校校長会	森重健	(委員)
	山陽小野田市社会福祉協議会	森重陽子	(委員)
欠席者 (5名)	山陽小野田市民生児童委員協議会	榎崎八由美	(委員)
	山陽小野田市立山口東京理科大学	恵谷誠司	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	千々松正俊	(委員)
	ヤクルト山陽山口支社	福濱栄士郎	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	山本浩子	(委員)
オブザーバー (欠席)	山口県宇部健康福祉センター	野村洋子	
事務局	福祉部長 福祉部次長兼子育て支援課長 技監 健康増進係長 健康増進係長(成人)	吉岡忠司 石田恵子 大海弘美 山本真由実 伊藤比呂子	福祉部次長兼高齢福祉課長 健康増進課長 主査兼健康管理係長 健康増進係長(食育) 尾山貴子 山本玄 野原崇史 加藤諭香江

		<p>1 福祉部長挨拶</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 第2次健康増進計画（中間評価）および第2次自殺対策計画最終案について</p> <p>(事務局から説明)</p>
会	長	第2次健康増進計画（中間評価）見直し案について、まずは食生活の分野から質問・御意見等ないか。
委	員	食推としては、地域交流センターを活用して毎年料理教室を行っている。近年は男性も積極的に料理に携わり、子どもや孫に対して、男性の視点で食育の大切さなどが広まっていると感じている。
委	員	幼稚園・保育園・学校でも食育について会議があり、話す機会がある。保育園でも朝ごはんや野菜摂取の大切さを子どもや保護者に伝えており、子どもとの会話の中でもきちんと食べているようだ。
会	長	次に運動面について、御意見はないか。
委	員	理学療法士会としては、ウォーキングマイスター養成講座等を支援している。おきよう体操は会として普及はしていないが、運動習慣の定着を促すためには携わっている講座で伝えることはできる。働き世代に対してのアプローチが難しいが、会として企業と連携して安全運転教室で体を動かすことの大切さや安全な運転の仕方、腰痛予防の講義等で介入しているので、いろんな団体から健康課題の吸い上げをしてもらうことで、会として関わりやすい。若い世代に対しても働き世代から働きかけるとよいのではないか。
会	長	スマートウォッチやアプリを使っている患者もおおり、モチベーションアップにつながっているが、DXの推進についてはいかがか。
委	員	薬剤師会では、スマートウォッチやアプリを活用した事業を令和6年度から自分の薬局で行っている。初めて取り組んでみて、歩くことへの意識づけになったと参加者は言われている。令和7年度も取り組む参加者数と対応する薬局を増やしていき、それが進んでいけば糖尿病や骨粗鬆症予防などへの展開も期待できる。さらには薬物治療が伴う方には予防・啓発につなげていける。
委	員	女性会では、ハイキングやグラウンドゴルフのお手伝いをしている。
会	長	市内にはそういった場の提供をしている団体もあるようだ。次にこころ・休養についてはいかがか。
委	員	精神保健福祉士会として情報提供はないが、こころの相談窓口を知ってもらうことやストレスの解消方法等も周知していくことも大切だと思う。
委	員	会社の同僚がうつ病で会社を休んでいたが、心の窓口について話したが知らなかった。自分はこころのサポーターではないが、環境を変えてみてはと同僚に提案し、実際そのとおりにしてみたら3か月で回復した。完全ではないが、薬を使いながら仕事復帰している。自分もこの協議会でこころの窓口を知ったくらいなので、もう少しアピールできるとよい。

会	長	こころのサポーターはアドバイスというより話を聞き、対応方法について学ぶ人で、引き続き増やしてほしい。次にたばこ・アルコールについていかがか。
委	員	環境的に喫煙場所も少なくなったし、狭まっている。加熱式たばこは害が少ないという認識があるように思う。加熱式たばこの健康被害のデータが少ないため、市や薬局でも伝えてほしい。妊婦で喫煙している方にはいい影響はないと伝えるようにしている。
会	長	中学生などたばこに興味を持つ子もいると思うが、子どもへの教育はどうか。
委	員	本校では直接たばこの教育は行っていないが、薬物乱用防止教室を行っており、保健センターや警察の方に来てもらっている。たばこは子どもたちも興味があるかもしれないが、あまり課題と感じていない。
会	長	アルコールについては、医療分野では血液検査データを見て脂肪肝への指導をしている。
事	務	局
		(欠席委員からの御意見の紹介)
		適切なアルコール量は、例えばアサヒビール公式アカウントに「飲酒量レコーディング」があり、入力することによって純アルコール量が把握できるというサービスがある。お酒を飲みながら健康管理できるので、その利用法をお知らせしてもよいと思う。
委	員	男性の吸った副流煙で女性が亡くなるケースがあった。電子タバコでも自宅内では吸わないようなルールを決めている。老後の構え方講座でもアルコールについてのテーマであったようにSOSかたつむりで行こう会でも周知している。立ち上げた百歳体操の中でもミニ講座として、周知している。
会	長	次に歯・口腔の面ではいかが。
委	員	子どもの健診に行くとお母さんから仕上げ磨きについて聞かれるが、痛みがあると嫌がってしまう。遊びの一環として行うのがよい。実際には、顔や手を足で挟み、泣こうがわめこうが口さえ開けてくれれば磨けるし、大きくなった時には子どもは忘れていて。それができない優しい親御さんが増えている。歯ブラシを嫌がるなら、1本ずつ磨ける歯ブラシや綿棒で痛くないように磨いたり、完全に磨こうとしないで行為自体を受け入れてもらえるようにするとよい。むし歯の子は昔に比べると減っている。目標指標では「仕上げ磨きをする親の割合」や「かかりつけ歯科医院がある市民の割合」が達成できていないが、3歳6か月児健診のむし歯罹患率はよくなっているので、いろんな面でフォローできるともっと目標値に近づくのではないか。
会	長	次に健康管理・がん検診・特定健診等についてだが、これまでいろいろな取組をしてきたが、なかなか受診率としては上がってこない。医師としては、患者に受けてもらうよう勧めていくことが大事だと思う。
委	員	特定健診は職場で受ける機会があるためほぼ100%受けるが、自営業や退職者で国保になると強制力がないため受診率が落ちてしまう。必要性を訴えてもそれだけでは行動に移せないことは山陽小野田市に限らな

会 務 局 長	<p>(2) その他 (事務局から説明)</p> <p>第2回の協議会で山陽小野田市の評価指標を、山口県を参考にしたと説明したが、健康やまぐち21計画(第2次)の評価の中に、E(評価困難)とあったが、どういうものか。</p> <p>→評価項目自体が廃止となり、データがとれないためE評価困難としているとの回答だった</p> <p>3 その他 なし</p> <p>令和7年度の協議会と任期終了の旨を説明し、閉会した。</p>
------------	---